

## 英語を和訳する力を高め、将来社会人としても役に立つ日本語力

## ～ 文部科学省後援事業日本語検定を受検して～

ECCジュニア尾生町教室 講師 藤本正美氏



ECCジュニアの尾生町教室の皆さんが、平成28年度第1回日本語検定試験を受検してくださいました。同教室の藤本正美先生にお話を伺いました。藤本先生は、14年間、ご自宅で「子供英会話スクールECCジュニア」の講師をされています。さらに5年前からはECC課外専任講師として、大阪府内にある保育園へ出向き、園児を対象にECCのレッスンを提供される等、幅広く活躍されています。

藤本先生、この度は受検いただきありがとうございます。ECCジュニアを紹介ただけです。ECCジュニアでは、「世界標準の英語力」の習得を目標としています。「世界標準の英語力」とは高校卒業の段階で、英語圏の大学等で学習できる英語力、あるいは仕事で英語が使える、国際交流言語として英語をコミュニケーションの道具として使いこなせる英語力を目指しています。それを可能にしているのがECCの長期一貫学習プログラムです。ECCジュニアで学ぶ子どもたちは、幼児・小学生で英語学習を始め、どんどん力を伸ばして学習を続け、応用力、運用力がつくまで学習します。使用する教材はどれもECCのオリジナルです。



日本語検定を受検した理由を教えてくださいいただけますか。

私たちのレッスンでは英語を和訳することがあるのですが、適切な言葉を探すのに時間がかかってしまう生徒さんを見かけることがあります。その様子を見るにつけ、小学生の語彙数の少なさを心配しておりましたが、最近、特に、母語である日本語の大切さを痛感しています。そんな時に出会ったのが、語彙力だけでなく、敬語、文法、表記、言葉の意味、漢字の総合的な日本語力を測定できる日本語検定でした。5名以上で受検できるのもとても有り難かったです。他の検定は10名以上の受検者がいないと当教室で受検できないので。

日本語検定を受検した生徒さんの感想を教えてくださいいただけますか。

そうですね。受検した時期は1学期でした。学校で習った漢字や語彙が出題されていましたので、試験が終わったあとで、「これ、習ったところだからわかった!」と、すごく嬉しそうに話していました。日本語検定の問題は、小学校の国語の学習内容とリンクしているところが良いですね。

また、生徒さんのお母さまが日本語検定に興味を持たれ、今回一緒に受検されました。お母さまの感想としては、普段何気なく使っている言葉もテスト形式で出題されると戸惑ってしまい、改めて、母語である日本語を見直す良い機会になったとのことでした。新聞などを、もっと日頃から意欲的に読み、語彙力を高め、次回の検定試験にチャレンジしたいとのことでした。



次ページへ



日本語検定を受検する動機の一つとして、英語力を高めるためにという方も多いのですが、藤本先生は、英語力と日本語力の関係をどのように考えていらっしゃいますか。

ひと言で表現するのは、難しいですね。共通するところも、共通しないところもありますね。

先日、生徒たちに「英語を話す時と、日本語を話す時と、どんな時に違いを感じるの？」と聞いてみると、「英語を話す時は、音を出す時の舌の動きが日本語と違う、それが楽しい」と答えてくれました。

私が感じているのは、日本語は英語より、様々な面で奥が深いということではないでしょうか。例えば、小学校の6年間で漢字を学習し、そのすべての漢字を音読み、訓読み、書き順を覚えたとしても、それは、まだ基礎の基礎レベル。そこから慣用句、ことわざ、四字熟語などをさらに身に着けて、発展レベルへと進みます。それでも、日本語をマスターしたとは言い難いのかもしれません。私自身、講師として生徒さん

の前に立つ身でありながらも、恥ずかしながら、まだ知らないことわざや慣用句もあります。日々、新聞などを通し、しっかり語彙力を生徒たちと一緒に高めていきたいですね。

話はそれますが、以前、自分のスキルアップのために通っていた英会話スクールにカナダ人講師がいました。彼は、日本人に指導するための英会話スキルを磨いていたのですが、同時に「日本語の魅力」にも心惹かれていて、和訳を指導する際に、色々な日本語を使い、テキストの英文を上手に日本語に表現してくれました。

例えば「葉から雨水がしたたる」「一円たりともお金を渡さない」「行間を読む」などの表現を使います。その日本語の表現力には驚きました。日本語は、その奥深い言い回しの多様さ、風情などが、魅力ではないかと思えます。

最後に、日本語力を高めることの重要性についてひと言だけだけいでしょうか。

現在は、タブレット、パソコンなどが、自分たちの知らない言葉を瞬時に教えてくれます。パソコンの画面で、空白に英文にしたい日本語を入力するとクリック一つで、翻訳サイトが英文にしてくれます。ですから、今の時代の子どもたちは国語辞書を片手に意味調べをすることは減っていると思います。私たちが子供のころであれば「紙の辞書を使った、言葉の意味調べ」は学校の宿題によく出ていました。日本語力を高めるには、やはり、自ら辞書を引く、言葉を知り、理解し、会話の中で正しく使いこなす訓練をしていくということではないでしょうか。

社会人として失礼のない言葉遣いでコミュニケーションを図れば、人間関係が円滑になります。また、私自身も便利なので使っているEメールですが、メールのやり取りだけではなく、きちんと対面し、話すことが大事ですし、社会人として最低限

の日本語力は必須です。日本語検定も日本語力を正しく測定し、日本語力を高めていくために有効なツールになると思います。私は20年前に大手企業の総務で働いていましたが、その頃に日本語検定があれば、自分の日本語力を高めて、それが仕事にも役立っただろうと思います。今も、言葉をたくさん知って、正確に使えることの大切さを日々感じています。

